令和６年度　いなべ市総合戦略事業進捗状況報告書（概要）計画期間：令和2年度から令和７年度まで

資料1

総合戦略プロジェクト（11頁 ※資料2の該当頁）

国の政策分野1

地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
⇒ しごと創生プロジェクト
数値目標：事業所数（法人税割納税義務者数）

数値目標名	単位	実績値	目標値 実績値						達成率（%）
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
事業所数（法人税割納税義務者数）	事業所	1,124	－	－	－	1,195	1,211	1,227	101.8
			1,156	1,170	1,179	1,212	1,233		

国の政策分野2

地方への新しい人の流れをつくる
⇒ であい創生プロジェクト
数値目標：観光集客数

数値目標名	単位	実績値	目標値 実績値						達成率（%）
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
観光集客数	人	410,764	453,000	455,000	457,000	459,000	461,000	463,000	128.1
			660,359	681,328	738,222	642,898	590,699		

国の政策分野3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
⇒ みらい創生プロジェクト
数値目標：合計特殊出生率及び 15 歳～49 歳の女性の人数

数値目標名	単位	実績値	目標値 実績値						達成率（%）
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
合計特殊出生率	%	1.39	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	82.9
			1.22	1.34	1.37	1.43	1.21		
15 歳～49 歳の女性の人数（前年度９月末の住基人口）	人	8,735	8,700	8,750	8,800	8,850	8,900	8,950	88.9
			8,633	8,435	8,245	8,117	7,914		

※前年度の 10 月 1 日から当該年度の９月 30 日までの期間で算出（例：R5＝R4.10.1～R5.9.30）

国の政策分野4

時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
⇒ くらし創生プロジェクト
数値目標：市民満足調査におけるまちへの愛着度アップ

数値目標名	単位	実績値	目標値 実績値						達成率（%）
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
まちへの愛着度（総合計画の市民満足度調査で「愛着を感じる」と回答した方の割合）	%	63.1	－	－	－	－	70.0	－	85.9
			－	－	－	－	60.1		

プロジェクト毎の進捗状況（11頁）

国の政策分野1

事業所数は、年々増加しており、目標値を達成することができました。市内の事業所数が増えることは、就業の多様性や機会の増加につながり、働き方や雇用形態の選択肢が広がり、より多くの人がさまざまな形で働くことができるようになります。
※令和4年度に工業統計が廃止されたため、新しい目標値として「事業所数（法人税割納税義務者数）」を設定しました。

国の政策分野2

観光集客数は、年々減少していますが、にぎわいの森と青川峡キャンピングパークは高い水準で推移しています。
今後は、これらに加え、観光拠点や交流拠点として整備したNordiskHyggeCirclesUGAKEIや野遊びSDGs拠点（仮称）を活動基盤の軸とし、地域経済の活性化や交流人口・関係人口の増加を目指します。
※来客数の目標値と実績値の乖離は、目標値に「にぎわいの森」が含まれていないためです。
※阿下喜温泉の集客数は、民間経営戦略の視点から観光集客数に含めることができなくなりました。
※次期総合戦略においては、状況に応じて適宜目標の見直しを行います。

国の政策分野3

合計特殊出生率は、出生数が前年度から51人減少し、15歳から49歳までの女性の人数が前年度より203人減少で、0.22％の減少となりました。
人口減少や就学、就労、結婚の機会による転出が考えられます。
今後は、人口減少の中、こどもや子育て支援に対するニーズ多様化の高まりに対応するため、新たな発見や出会いを創造する複合的な子育ての拠点施設の設置により、子育てのしやすい街を目指します。

国の政策分野4

市民満足度調査の実績値は、60.1％と目標を達成できませんでした。
中学生への調査では、愛着、親しみを感じていると回答した割合が80.1％と令和元年度の70.6％から9.5％上昇しました。
今後は、第3次総合計画において、若者だけでなく、すべての世代で「誇りと愛着」を感じてもらえるよう取り組みます。

プロジェクトを構成する事業の進捗状況（13頁、34 頁～41 頁）

国の政策分野1

判定	A	B	C	D	不能
指標数	5	3	1	0	0

しごと創生プロジェクトは、9事業中8事業がA及びB判定で順調にプロジェクトを進めることができました。
C判定の「そば祭り入場者数」は、目標を達成できませんでしたが、前年度より 4,000 人増の10，000人で、コロナ禍以前の8割まで回復しました。

※前年度と比較すると、昨年度D判定であった「企業立地件数」が3件増、「企業相談件数」が8件増でA判定に改善し、昨年度C判定であった「審議会等への女性登用率」が1ポイント上昇でB判定に改善しました。

国の政策分野2

判定	A	B	C	D	不能
指標数	2	4	3	1	1

※不能は阿下喜温泉の集客数

であい創生プロジェクトは、11 事業中 6 事業がA及びB判定で概ね順調にプロジェクトを進めることができました。
C判定の「福祉バス利用者数」は、目標を達成できませんでしたが、コロナ禍後は、若干回復傾向にあります。
令和7年度は、市民アンケート調査を実施し、より便利で使いやすい公共交通の検討を行います。
C判定の「農業公園の集客数」は、梅まつりの開催期間（集客カウント）と開花時期のずれが減少の要因と思われます。
C判定の「ツアー・オブ・ジャパン観客動員数」は、コロナ禍後 2 年目の開催で昨年度よりも 2,000 人増の18,000 人で、コロナ禍以前の 9 割まで回復しました。
D判定の「移住支援事業補助金を活用して移住した世帯数」は、実績がなく目標を達成することができませんでした。今後は、空き家バンクの登録及び空き家の利活用の促進に向けて、空き家相談の充実を図りながら事業展開を行います。
※前年度と比較すると、昨年度C判定であった「空き家バンク登録物件の契約成立件数」が4件増でA判定に、また、「北勢線利用者数」が 54,557 人増でB判定に改善しました。

国の政策分野3

判定	A	B	C	D	不能
指標数	9	2	3	0	1

※不能は不妊治療助成申請数（令和4年度から保険適用のため。）

みらい創生プロジェクトは、15 事業中 11 事業がA及びB判定で概ね順調にプロジェクトを進めることができました。
C判定の「各校に登録する学援隊員数」は、昨年度から増員できず、目標を達成できませんでしたが、今後も学援隊員数の登録のための啓発を継続します。
C判定の「全国学力学習調査において『将来の夢や目標を持っています』と答えている中学 3 年生の割合」は、目標を達成できませんでしたが、未来いなべ科にて未来を切り拓く力を育みや社会見学、ゲストティーチャーの招待などにより、生き方について考え方を深めています。
C判定の「子育て支援センター利用者数」は、、目標を達成できませんでしたが、コロナ禍後順調に回復しています。今後も地域の公民館等へ出向く「出前ひろば」の開催や、保健師と保育士が連携して支援センターへの来館を促すことで、利用者の増加を図ります。
※前年度と比較すると、C、D判定の改善はないものの、昨年度B判定であった「【中学校】学級満足度調査（QU）において、満足群に位置する児童・生徒の割合」及び「青少年育成市民会議諸事情への市民参加者数」がA判定に改善しました。

国の政策分野4

判定	A	B	C	D	不能
指標数	5	8	1	0	0

くらし創生プロジェクトは、14 事業中 13 事業がA及びB判定で順調にプロジェクトを進めることができました。
C判定の「防災講演受講者数」は、目標を達成できませんでしたが、年々受講者は増加しており、前年度より124人増の843人で、コロナ禍以前の7割まで回復しました。また、女性消防団による防災講演の実施により、地域啓発の高まりにつながりました。今後は、防災ガイドブックを説明するYouTubeも積極的に活用し、啓発を行っていきます。
※前年度と比較すると、昨年度C判定であった「農を通じた障がい者雇用数」が3人増でB判定に改善しました。

※判定「A：100％以上：進んだ」、「B：85％以上～100％未満：ある程度進んだ」、「C：70％以上～85％未満：あまり進まなかった」、「D：70％未満：進まなかった」、「判定不能：事業が終了したもの又は、判定ができないもの」